

2022 年度国際ユース作文コンテスト

【子どもの部】 優秀賞

大切なのは生きること

(原文は英語)

パダルコ・アリーナ・アレクサンドロブナ (13 歳)

ウクライナ・ハルキウ市

ハルキウ第 43 学校

2022年2月24日のウクライナ・ハルキウ。私は朝4時ごろに爆発音で目を覚ましました。両親の部屋に行き、「聞こえた？ 何が起きてるの？」とたずねると、こう返ってきました。「戦争が始まったんだ」

同級生の両親からは、子どもは学校には行かせない、自分たちも仕事には行かない、皆で町を離れるという連絡が入り始めました。このときの私にはわからないことだらけでした。そんなに大変な状況なのか。急いで町から避難しなければならないなんて、2日後には去年から準備してきた、私の一番大切な人の誕生日会があるのにお祝いできないなんて、家族や友人が皆「生きています？」と連絡を取り合うなんて、最悪でした。

この21世紀に、祖母のキュウリやトマトの様子を見るためでなく、隠れるために地下室に入ることになるなんて私は思ってもみませんでした。

隠れ家に着いても私は自分の存在をそこから消そうとしました。目を閉じ、耳を閉ざし、ただの夢なんだろうと思うようにしました。すると世界的に有名なある言葉が思い出されました。「自分が持っているものに感謝しなさい」。それまではあらゆることが平凡で、どこか退屈で活気のない日々の日課のように思っていました。でも今の私に大切なのは何か。

私には命が大切です。これまでよりもっと命に感謝し、大切に思うようになりました。今日が自分の最期の日になるかもしれないと知っているから。次に飛んでくるミサイルや爆弾、飛行機がどこに落ちるのか、どこを攻撃するのかわかりません。生きてると良いことやうれしいこともあれば、悪いことや危険なこともあります。たとえ地下室の中でもそばには両親がいます。幸運を信じ、希望を失わず、じっと待つように励まし、助けてくれます。

私は生きることについて考え、それがどのようなものだったかを思い出してみます。毎朝学校に行く、帰って来て宿題をする、母とジムに行く、友だちの犬と一緒に散歩に行く。笑ったり、うれしかったり、成績が悪くて泣いたりする。生きていたときのこうした瞬間はどれもとても大切です。そうした瞬間は長くは覚えていませんが、思い起こすと、生きていた実感がわいてきます。

感謝し、愛し、喜ぶこと。命は贈り物です。そのことがわかれば、私たちが歩いていく道も人生も最善の方向に進んでいくでしょう。

今日、明日、1週間後に起こることは予測できません。ですが未来を築くことはできます。私が大切に思うことが私の未来を作り出します。